

同窓会だより

信州大学医学部保健学科同窓会事務局
School of Health Sciences, Shinshu University
第3号 2005年10月



—目次—

保健学科同窓会設立三年目を迎えて	2
同窓会の皆様へ	3
新入教員のご挨拶	4
特集:カーティン工科大学留学	6
編入学生からの言葉	10
総会記録	13
決算・予算報告書	14
同窓会役員	15
信州大学医学部保健学科同窓会会則・細則	15
編集後記	16

2005
第3号

保健学科同窓会設立三年目を迎えて

信州大学医学部保健学科同窓会長 川上 由行
(検査技術科学専攻 病因・病態検査学講座 教授)

信州大学医学部保健学科は、今年2005年には第三期生を迎えました。そして、新入生は医学・医療の道への第一歩を順調に踏み出しました。昨年入学した第二期生は二年次となり、それぞれの専攻分野の専門科目も増え、希望に燃えて学んでいます。また、一期生は三年次になり、次年度以降の就職や大学院への進学を見据えて頑張っています。彼らが勉学に精励されて、実のある学生生活を過ごされるよう切望しております。

さて、保健学科同窓会は、会員相互の親睦を図り、母校との連携を保ち、母校の発展に寄与することを目的とし、これまでの後援会組織が発展的に解消するとともに、従来の短大時代までの学科単位・専攻単位の同窓会組織を包括して融合発展させていくことを確認し、一昨年4月に発足しました。本会は、助産学専攻科を含む医療短大在校生と保健学科在校生への教育支援活動や、快適な学生生活を提供するための福利厚生関連を主とするものです。

信州大学は、昨年4月から「国立大学法人信州大学」として歩み始めており、また各学部・学科単位の同窓会組織を包括する「信州大学同窓会連合」が小宮山淳学長より提起され、その呼びかけに応じて保健学科同窓会もメンバーに加わり、奥村伸生幹事(検査技術科学専攻教授)が役員として着任しております。

また、本年からは、財団法人「信州医学振興会」へも賛助会員として加入し、同窓会長の私(川上由行)が評議員として加わることになりました。この「信州医学振興会」は、信州大学医学部の創立50周年を機に長野県の医学振興を目的として医学部同窓会が提唱者となり、基金醸出を広く長野県、松本市をはじめ県内医療関係者、企業経営者など関係各位に求め、平成6年5月に発足した特定公益増進法人です。以来その目的とする県内医療現場において活躍する医師及び医療関係者(外国人研究者を含む)の学術・研修に対する助成のほか県民の医学知識、保健医療の向上のための事業を展開し実績を挙げてきています。長野県において、医学研究及

び医療を担当する医師、看護師並びに医療関係者の学術研究、研修、育成及び国際交流を助成し、長野県における医療水準の向上に寄与することを目的とするものです。既に、本学の現職教員



の中にもこの「信州医学振興会」の基金の恩恵に浴された教員が数名いらっしゃいます。今後は、従来以上に「信州医学振興会」の恩恵を享受して頂きたいと思っております。

発足まもない同窓会ですが、ホームページの開設、同窓会報(保健学科だより)の発行、カーティン工科大学短期留学の支援活動、図書費の補助、卒業祝賀会の補助、キャンパス見学会の補助、銀嶺祭や松本ぼんぼん等の学生課外活動の支援等々、よちよちなながらも二年間歩んできました。また、昨年は学生さんの切実な要望に呼応して、講義室等に配置する扇風機39台を購入しました。本年度も学生さんからの強い要望に応じて、いわゆる「けもの道」の補修整備を行いました。共通教育センターと保健学科校舎を短時間で行き来して受講するために、ほぼ全員の学生諸君が利用しているのが「けもの道」です。補修整備によって特に雨天等での足元の不安解消や、保健学科校舎内の泥による汚れの軽減化にも期待できると考えます。

なお、同窓会に対するご要望は、直接に近く同窓会役員(理事・幹事)までお寄せ下さい。

また、同窓会総会や同窓会が主宰する講演会等につきましては今後ホームページで逐次案内をさせていただきますので、同窓会のホームページ(<http://alps2.shinshu-u.ac.jp/groups/hoken/>)を「お気に入り」に登録していただき、定期的にアクセスしていただければ幸いです。

信州大学医学部保健学科同窓会の運営に際しての暖かいご支援・ご鞭撻に感謝申し上げます。

同窓会の皆様へ

信州大学医学部保健学科長 **市川 元基**
(看護学専攻 小児・母性看護学講座 教授)

平成15年4月に医学部保健学科に第1期生が入学され、平成17年4月にはその第1期生が第3年次生になりました。3年次からは看護学専攻、理学療法学専攻、作業療法学専攻でいよいよ本格的な臨地実習が始まります。私たち医療人が臨床の現場で患者様及びそのご家族から学ぶことは数限りなくあります。保健学科の学生さんたちも臨地実習で学ぶことはこれからの医療人としての人生において計り知れない影響があり、大いに勉学の励みになることでしょう。この臨地実習では良い実習現場とその現場における優秀な実習指導者の確保が最も大切です。理学療法学専攻と作業療法学専攻では実習指導者の方々とは保健学科教員がいっしょに行う実習指導者連絡協議会が既に以前から行われてきましたが、保健学科発足にあたり、看護学専攻と検査技術科学専攻でも実習指導者連絡協議会を行うことになりました。この実習指導者連絡協議会は同窓会のご後援の上で成り立っております。いろいろな実習現場における諸問題を話し合い、よりよい実習を行うための講演会を開催して保健学科の臨地実習を実りあるものにしていきたいと思っております。

保健学科発足時から同窓会のご後援で保健学科が主催して行ってきた市民公開講座・シンポジウムは平成16年度も3回開催されました。平成16年11月6日に「ホスピスケアを考える」という演題で季羽倭文子先生(ホスピスケア研究会顧問)に御講演いただき、長野

県内の多くの看護師や医療に関わるの方々のご参加をいただきました。平成16年12月4日には「女性として生きていく一支援の現場から」という題でシンポジウムを開催し、「性差医療と女性外来」について天野



恵子先生(千葉県衛生研究所所長・東金病院副院長)に、「フェミニスト・カウンセリングの力」について河野貴代美先生(お茶の水女子大学ジェンダー研究センター教授)に御講演いただきました。平成16年12月18日には松本保健所のご協力も得て「エイズ・性感染症予防講座—大切なあなたにささげる解体性書—」という題で川田龍平先生(松本大学非常勤講師)に「HIV感染者として」講演していただき、岩室紳也先生(地域医療振興会・ヘルスプロモーション研究センター長)には「コンドームの達人が語る目からウロコのエイズ・性感染症予防講座！」についてお話ししていただきました。いずれのシンポジウムも多くの聴衆が集まり、マスコミにも取り上げられて活発な討論が行われ、保健学科をアピールするものであったと思っております。

今後も同窓会の皆様のお力をお借りして保健学科をよりよいものに発展させていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



新入教員のご挨拶

「犬も歩けば棒にあたる」

相良 淳二

(検査技術科学専攻 生体情報検査学講座 教授)

理学部出身の私は、医療を目指した方たちと比べると、人の役に立ちたいという使命感から程遠い人生を歩んできた。勝手気ままに生きていけるほど現実の社会は甘くないが、何かの岐路に立ったとき、「面白そうだ」と感じ



た方向を選択する。その意味で、現在の定職を持たないニートと呼ばれる若者に近いところがある。老婆心ながら、ニートと呼ばれる若者たちの将来について、わが身を振り返りながら心配になってしまう。しかし、そのような中から新しい価値観や産業が生まれることを期待するのだが。

現在、私はインターロイキン-1 β とインターロイキン-18の産生機構の研究に従事している。インターロイキンは細胞が放出する免疫制御に関係する一群のタンパク質で、20種類以上知られている。インターロイキンは感染や癌から体を守るために重要な働きをしているのだが、インターロイキンが作られすぎても、リュウマチやアトピーなどの病気になる。その意味では、私の研究は臨床と密接に関係した課題であると言わなければならない。しかし、この研究課題に至った理由は、癌や免疫病の原因を解明し、治療法を開発したいという使命感から出発したわけではない。たまたま発見した分子が、インターロイキン-1 β および-18産生に関係する分子であった、という理由にもならない理由から出発している。

日本国内ではあまり知られていないのだが、この分野は世界的に激しい競争の真只中にあり、研究者間の足の引っ張り合いも激しい。最近、米国の強力な研究グループとの先陣争いに負けてしまい、悔しい思いをした。この紙面では言えないような言葉を何度言ったことだろう。倫理観や使命感からは程遠いが、病気の原因解明に対して、私の研究が少し役立っていることは確かだ。

私は半年ほど入院した経験もあり、病人はお医者さ

んや看護師さんが頼りであることを身にしみて感じたり、人生の最後にお世話になるだろうことも理解している。保健学科の学生諸君は日々膨大なカリキュラムのなかで、使命感を奮い起こし、頑張っている姿には、私の学生時代を省みると頭が下がる思いである。しかし、中には自分は人に対する優しさや使命感がないのではないかと悩んでいる人もいるかもしれない。そんな人には、「やってれば何か役に立つこともあるよ」と言いたい。

私の松本史

谷本 桂

(看護学専攻 広域看護学講座 助手)

住み慣れた新潟県を後にして、高校を卒業したばかりの私が初めて松本で1人暮らしを始めたのは、もう10年以上も前のことです。松本は、どこを見渡しても山、山、山。何だか山に攻め込まれているような、圧迫



されているような気がして、息苦しさを感じたのを憶えています。とにかくその当時は、四方八方山に囲まれた松本の風景になじめませんでした。信州大学医療技術短期大学部看護学科への入学を決めたことを後悔しながら、日本海に思慕の情を抱き、3年間は山をなるべく見ないようにひっそりと暮らしていました。

でも、山より何より松本での生活で我慢できなかったのは厳しい寒さでした。冬の自転車での銭湯通いは地獄そのもので、せっかく温まったのに家にたどり着くまでに体は冷えてしまうし、髪は凍るし。雪は新潟ほど降りませんが、松本の雪は積もれば凍ってついでになかなかなくなりません。まだスパイクタイヤが生きていた時代でしたので、春になると街中では粉塵が舞っておりました。

おまけに、入学した年にスギ花粉症を発症し、せっかくのゴールデンウィークも台無しになりました。発症するのは時間の問題だったので、宣告を受け

て、私は松本という環境に適応できない人間なんだという思いに囚われました。とにかく、入学して約1ヶ月後の花粉症発症、冬の凍てつく寒さ、山に囲まれた風景は自分で改善しようにもできない問題でした。

そんなこんなで松本には長居はすまいと心に決め、短大卒業と同時に東京に出た私でしたが、なぜかしら今、縁があって松本に住んでおります。あれだけ息苦しく感じた山々も、今眺めれば雄大さを感じますし、春先には雪形が出るのを心待ちにしている私がいいます。スギ花粉症の症状は東京にいた頃よりも和らいだ気がします。また、東京で出くわしたゴキブリややぶ蚊に松本ではお目にかかることもなく(地区によって差はあるとは思いますが)、平和な毎日を送っております。ただし、冬の凍てつく寒さに耐えられないのは変わりありません。

今後、私の中の松本はどのように変化していくのか、10年後も松本に住んでいるのかはわかりませんが、私の松本史のページを増やしていけるといいなあと思っております。

私の自己紹介

中條 淑恵

(看護学専攻 広域看護学講座 助手)

7月より赴任してまいりました中條と申します。

学内で会われる先生方にはもうお分かりの方もいらっしゃるかもしれませんが、小さな体と幼顔が学生に見間違われるほどの私ではありますが、某市役所にて保健師として少しばかり働いてまいりました。松本は初めての土地であります、それもこれから開拓していく楽しみでもあり、方向音痴の私が、なんとか無事目的場所までつけるようあちこち検索しながら、松本平の生活を充実させていきたいと思っております。



信州大学に着任して

渡辺 みどり

(看護学専攻 成人・老年看護学講座 助教授)

松本市近郊で生まれ育ち、松本市内の高校に通い、18歳まで、この地で過ごしました。進学・就職と他県で過ごし、20年ぶりにふるさとに戻って働くことになりました。毎日、北アルプスを見ては、懐かしく思っています。臨床は千葉と山梨で、教育研究活動は山梨で行って来ました。臨床経験は11年、看護師、訪問看護師として働いてきました。私生活は、山梨に、夫、姑、娘3人がおります。3世代家族でにぎやかな家庭です。山梨から高速道路通勤で1時間45分、時々肩こりに悩みます。けれど、懐かしい地で働けることをうれしく思っています。



私は、松本市郊外の朝日村で育ったのですが、朝日村はかつて、脳卒中が多く、どちらかというと短命な地域でした。村の医療機関も限られたもので、夜間の受診に住民は困っていました。そんな頃、信州大学の信州大学公衆衛生学教室と松本保健所が朝日村に出向き、健康村への取り組みが始まりました。後に、私が看護学に進み、ふるさとの保健事業について調べ、そのような取り組みの詳細を知りました。「一部屋に一台のストーブを」、「隙間風をなくそう」などのチラシも役場には保管されていました。その時私は、教育研究機関が地域住民の命・健康を守るためにこのような役割を果たしていたことを改めて知り、身近に感じ、少し驚きました。その取り組みを経て、朝日村は、一人当たりの医療費も減り、元気老人の多い村に変わりました。20年以上の取り組みでした。

信州大学は、伝統があり、地域への貢献の大きな大学だと思います。私も一教員として、その一端を担う仕事ができるよう努力していきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

カーティン工科大学短期留学



Curtin 工科大学短期留学プログラムに参加して 専攻科助産学特別専攻 岡田 しのぶ

私は海外の医療や福祉がどのように行われているのか、興味を持ち、今回の短期留学を申し込みました。オーストラリアという異文化という環境のなか、英語での授業を受け、ホームステイをし、英語でのコミュニケーションを学びました。またオーストラリアの医療制度、健康状態、日本と同じように高齢化社会の問題を抱え、その問題に取り組んでいること、広大な土地のため飛行機にて患者様を搬送するフライング・ドクターのことを学び、また私立病院や老人ホームなどさまざまな施設を見学しました。

小児科病院では、治療をしながら、児の発達・発育を阻害しないような配慮がありました。それは子供たちにとって大切な遊びが十分できるような巨大なプレイルームがあり、クラウン・ドクターという医者格好をしたピエロが定期的に病院を訪れ、子供たちの精神的なサポートをしていることなどでした。

そして産科病院ではより自然に近い状態でお産ができるような病室作りがされ、そこではモニターをつけず医療行為が最小限となるように配慮がされていま

た。しかしそこでもし異常が起きても、すぐ治療が受けられるように同じ敷地内に緊急時に対応できる病院がありました。サポート体制が充実し、日本と同じように、患者にとってよい治療を受けられるような環境を目指していると感じました。

オーストラリアという異文化の医療、福祉の違いを学ぶことで、良いところを参考にし、取り入れ、医療や福祉とよりよいものになっていければよいと思います。

またオーストラリアの雄大な大地を見たり、カンガルーやコアラなどさまざまな動物と触れ合うことができました。それから新しい保健学科の友達ができたと、ここで働いている日本人の方とお話できたことなど、とても充実し、貴重な3週間を過ごすことができたと思います。

単位認定プログラムに参加して 検査技術科学専攻3年 西川 菜緒子

私がこのプログラムに参加したのは、外国に行ってみたかったことと、英語圏の文化に触れ自分の視野を

広めなかったからです。パースでの生活はすべてが新鮮で毎日が驚きの連続でした。

ホームステイ先のマザーは一人暮らしで、他の留学生もなく、私と二人きりだったので、すごく心細く不安に感じたのですが、マザーはとても親切で、ホームシックになることも忘れ、次第に心細さも感じなくなりました。

夜マザーと、パース市を見渡すことができるキングズパークを訪れた時は、夜景がとてもきれいでした。大きな慰霊碑が建てられ、広場には火がともされていました。慰霊碑には第一次、第二次世界大戦を始め、戦争、紛争で亡くなった方々の名前が彫ってありました。慰霊碑について綴った文章を読んでいると、ひどく心が打たれました。

一週目の英語の授業で特に面白かったのは、患者と医師になって英語で会話するというゲームです。またパース市やオーストラリアの医療についてビデオに撮る課題もありました。ペアになり、スピーチの中に二人のやりとりを加えるところが新鮮でした。カーティンでの英語の授業は、ただ聞くだけでなく、参加することに意義があると感じました。

二週目は、オーストラリアのヘルスケアシステムについて学びました。広大な土地にもかかわらず人口が少ないオーストラリアでは、田舎や遠隔地での医療不足が問題です。そこで考案されたのが、ロイヤル・フライング・ドクター・サービスです。これは、遠隔地の重症患者を、救命装置を備えた小型飛行機で大病院まで運ぶシステムです。このサービスのおかげで、年間約197,000人も患者さんが助かっています。

三週目の検査部の訪問では、どこの検査部でもQC(精度管理)の問題が取り上げられ、日本と同じだと感

じました。検査機器も日本製のものが使われていました。違うところは、検査技師になるためには免許がいらないことと、検査の各領域(血液学、微生物学、生化学、免疫学など)が分かれるのでなく、1つの部屋で行われていることでした。

一番のカルチャーショックは、食器を、洗剤を含んだ貯め水で洗い、洗剤がついたままタオルで拭いたことでした。夏になると雨がほとんど降らないので、比較的雨の多い冬に水を貯めなければなりません。そのためオーストラリアの水事情は深刻で、日本では感じることの出来ない水のありがたみを実感しました。

私は、この単位認定プログラムに参加して、もっと多くの人とコミュニケーションをとりたいと思うようになりました。臨床検査技師は、患者と接する機会があまり少ないのですが、もっと患者の近くでサポートできたらと思います。

カーティン短期研修を終えて

作業療法学専攻1年 平井 佑希

私にとって今回の海外研修は予想以上に有意義なものとなった。

これはすべて、機会を与えてくださった大学側の力添えがあつてのことである。個人ではなかなか経験できるものでなく、同行された先生方を始め大学の諸先生方、本当に貴重な時間を過ごさせていただいた事に深く感謝したい。

この研修では言語を始め異文化の中で毎日、生活を送ること全てが新鮮であり刺激的なものであった。なかでも言語である。日本以上に、積極性や自主的な行動が求められていることである。つまり黙っては何も望めず、技術的に進歩もしないのである。遠慮せず、自分の意思をはっきり伝えることが何より必要なのである。これは技術的なこと以前の問題で基本的なことではあるが、最も重要であるといえる。日本語であっても人前では堂々と発言できない自分にとっては大きな教訓となった。

講義等で学べたことを中心に簡単ではあるが現地での医療について述べる。ヘルスケアが抱える問題





点は日本と同じくして、まず①高齢者への対応が挙げられ②高い医療費③私的な保険の加入率が低いなどである。全体として医療が病院にとどまらずコミュニティベースでの1次予防的取り組みやケアが求められており、いかにして公正に資源を分配できるか、高齢者を主としたクライアントのニーズに対し適切な対応ができるかが焦点となる。作業療法士(以下OTとする)の働きも病院から主にコミュニティが中心となり高齢者への対応が重要となってきた。ただヘルスケアは医療だけの問題ではなく、行政・福祉との連携が不可欠である。それが国や市町村といった地域そして現場といった各レベルでの隙間を埋めることにもつながっていくといえる。

最後に研修を終えてだが、知識もまだ不十分で何か確信をもてたわけではないが、以前に比べ、私の中で世界は広がり人間的にも少しだけ大きくなったとは思える。ただ私は英語を始め、多くの点で解決し改善しなければならない問題も残されている。将来、国際的に十分活躍できるOTとなるため、言語の壁に屈することなく主体的な自己学習を通して幅広い知識を得たいと考えている。また、この研修を機に若いうちにできる限り多く海外へと出かけ様々な経験を積んでいきたい。

Curtin 工科大学短期留学プログラムレポート

専攻科助産学特別専攻 丸山 裕貴

今回が初めての留学でした。このプログラムに参加しようと思ったきっかけは単純なものでした。ただ単に、“自分を変えたい!”という理由でした。なぜ自分

を変えたいと思ったかを話し始めると時間がかかるのでやめますが、とにかく今の自分を少しでも変えたいと思ったのです。しかし、プログラムに参加は決まったものの、私は英語が苦手だったため、最初は言葉が通じるか不安で、なかなか積極的に会話をしようとしませんでした。一週目は早く日本に帰りたくて帰りたくてたまりませんでした。しかし、一週目の週末皆でロットネス島に行きオーストラリアの大自然に触れ、買い物や食事をしたりする中で、オーストラリアの魅力を感じ始め、徐々にこっちの生活にも慣れてきました。

また、助産学専攻科からは二人だけの参加であったため、最初は先生も他の学科の生徒も初対面の人ばかりで、本当に心細かったです。しかし、皆とも仲良くなることができ、二週目からはあっという間に毎日が過ぎていきました。また、ホストファミリーもとても親切にしてくれ、大学から帰った後も楽しく毎日を過ごすことができました。今回の旅の目標の一つでもあったカンガルーやコアラにも触れ合うことができました。また、学生がプランを提案しピナクルズに行ったりし、オーストラリアを満喫することができました。

今回のプログラムを通し、多くの人と出会い、多くの体験ができました。この出会いと経験を大切にしたい、これからの自分の人生に活かしていけたらいいなと思います。ただ、このプログラムに参加し自分が変わったかはわかりませんが、このプログラムに参加して本当に良かったと心から思っています。

オーストラリアで得たもの

理学療法学専攻2年 龍崎 大地

私がこの研修で学習したこと。それはまず第一に「医療には必ずニーズが存在し、医療者はそのニーズに応えなければならない、もしくは応えることができるように最大限の努力をしなければならない」ということであった。今更と思われるかもしれないが、授業で学んでいたとはいえ実感のわからないものだったのである。プログラムの中でRFDS (Royal Flying Doctor Service)の見学があった。これはい

わば「空飛ぶ救急車」のようなもので、都市から離れたいわゆるアウトバックで発生した重症の患者を迅速に都市の医療施設まで輸送するというサービスであった。とても素晴らしいサービスであると思うが、もちろん日本には存在しない。しかしそれは日本においてそのようなニーズが存在しないからではないかと思われる。その国に(もしくは地域に)存在するニーズを把握したサービス。これは各患者個人のニーズをしっかりと確認して医療を行う事の重要性にもつながっているのではないかと思った。第二に「視野を広く持ち、自ら積極的にならなければいけない」ということだった。カーティンの学生と勉学に対する意見を交換できる機会があったのだが、それが非常に役にたったと思う。一言でいうと、彼らはとても貪欲であった。元来受身的な私は与えられた情報のみで満足していたが、それだけでは自分の世界は広がっていかないということに気づかされた。自らが興味を持ったことは自ら積極的に追求してゆくこと。その姿勢が自分にかけていたのではないかと思う。プログラム全体を通してみると、医療システムの違いを学べたことや、おおくの施設へ見学へいけたことが嬉しかった。英語の授業では日常場面や医療現場での会話を中心にした授業が展開されたのでとても楽しかった。多くのことを見、聞き、体験できたことの他に、このプログラムでの大きな収穫がもう一つある。それは「出会い」である。いっしょにプログラムに参加した保健学科の学生、ホームステイ先の家族、カーティンの学生や教員。たくさんの人たちと出会えたことで、医療のことに限らず、多くの意見を聞くこともできた。この出会いを大切にしながら自らの目標に向かって進んでゆきたいと思う。

Curtin 工科大学短期留学プログラム課題レポート

看護学専攻2年 若林 美佐

英語を使って英語圏の人々と会話してみたかったということと、オーストラリアの医療を学ぶことができ、病院を訪問できるということもあり参加を決めました。

パースに着いてからは緊張のしっぱなしでした。英語を話す上で気づいたことは、意識しないと全く耳に入ってこないということ。初めはホストマザーが言っていることが十分理解できなかつたり、自分の言いたいことが全く言えなかつたりで「もう英語を話したくない！聞きたくない！家に帰りたくない」と思ったりもしました。そんな時、先生から「気楽にやればいいんだよ。めちゃくちゃな英語でも気にしないでいいんだよ」とアドバイスをもらい、ホームステイが楽しくなりました。めちゃくちゃな英語でも自分の言いたいことをホストマザーに話していると、話さなかつた頃よりもホストマザーが楽しそうにしていたので、よかつたと思いました。

大学の授業はとても興味深く、先生もお茶目でおもしろかつたです。即実践できるような英語を教えてもらい、医療英語も学べました。大学はきれいで広く、勉強する環境としては最高でした。おしゃれなカフェもあってすぐに行けるし、お昼には芝生の上に座ってのんびりサンドウィッチを食べたりして、とても楽しかつたです。授業前にモーニング・ティーで、紅茶を飲んだりケーキを食べながらいろんな人と英語で会話するのは楽しかつたです。施設見学では、日本との違いもわかつて、良い面は日本でも取り入れていけたらいいと思いました。

パースで一番よかつたのは、知らない人でも気軽に挨拶ができるということでした。パースの人々はとてもきさくで、道ですれ違う際に必ず挨拶をしてくれました。親切な人が多く、バスを降りる場所が分からず困っていたら、「今ここにいるのよ」と教えてくれました。またバスが混んでいた時、優先席に二人のオーストラリア人がいて、ピアスを耳やら口やらたくさんつけて見た目はこわくて近寄りたがい感じだつたのですが、目の見えない人が乗ってきた瞬間に「どうぞ」と声をかけて席を譲っていました。私はすぐに気づかなくてそんな自分が恥ずかしくなりました。当たり前のことかもしれませんが、日本ではこのようなことが当たり前できない人はたくさんいます。

パースに来て、日本では絶対にできない多くの経験をする事ができて、とてもよかつたです。また機会があればパースに行きたいし、短期留学もしたいと思いました。

編入学生からの言葉

編入後の私

看護学専攻3年 加藤 洋美

私はこの4月に編入生として信州大学医学部保健学科に入学しました。飯田女子短期大学看護学科で看護師免許を取得し、現在は重荷保健師の資格を取得するための科目を勉強しています。前期の専門科目としては農村看護ケア論、地域看護方法論、疫学保健統計、看護研究といった科目を学びました。私は地域医療に興味があるのですが信州大学では私が生まれ育った長野県の医療の現状や活動などを知ることができるので嬉しく思います。専門科目以外に一般教養の科目もいくつか学ぶことができました。もっと視野を広げたいと思い、今年の夏休みはオーストラリアに短期留学する予定です。病院や施設の見学や大学の授業を受けたり、ホームステイをしたり様々な経験ができるそうです。海外の医療に関して興味があるのでとても楽しみです。

短大の時の生活はとても忙しく、目の前にあることをやるので精一杯でした。しかし、大学では短大で取得した単位が認定されたため、時間的に余裕があり、充実した日々を送っています。

勉強だけでなく部活やサークル活動にも積極的に取り組んでいます。私は医学部バスケット部のマネージャーをしています。バスケットの経験があるので練習や試合を見るのが楽しいです。8月の頭には東日本医科学学生総合大会があり、この試合に勝てればベスト4にいけるという試合に参加できましたが、少しの点差で負けてしまい悔しさが胸がいっぱいになりました。一人ひとりが最後の一秒まで頑張る姿を見たり、試合の後に悔し涙を流しているプレーヤー達を見たりしてとても感動しました。皆がベストな状態で練習に取り組み、試合に望めるように今後も頑張っていきたいです。他に天文部とブルーフィールドというアウトドアサークルに入っていて、多くの仲間ができて嬉しく思います。

今までは看護師になりたいと必死に頑張ってきましたが、ただ資格を持っているといった看護師ではなくこの看護師にみてもらいたいと思ってもらえるような看護師になるのが私の目標です。将来はまず看護師の経験を何年か積んで、その後に養護教諭または保健師

として働きたいと思っています。海外での就職や青年海外協力隊の活動などにも興味があり、考え中です。この2年間に積極的に多くのことを学び、様々な経験をして人間的に大きく成長していきたいと思います。

編入について

検査技術科学専攻3年 加藤 陽子

私は今年の3月に信州大学医療技術短期大学部衛生技術学科を卒業後、4月から保健学科検査技術科学専攻に3年次編入し、ゆとりのある学生生活を送っています。

信大医短を卒業したとき、国家試験に合格して臨床検査技師の免許を持ちながらも就職ではなく編入することを選んだ理由はいくつかありますが、最も大きな理由は自分のやりたいことをみつけたかったからです。多忙だった医短時代には、課される課題をこなしていくのが精一杯で私には自分の将来についてじっくり考える余裕がありませんでした。だから編入した2年間で考える時間が欲しかったのです。

実際編入してみると、講義数は医短の頃よりもはるかに少なくゆとりがあり、個人の自由な時間が増えました。この時間の使い道は人それぞれですが、私はその時間に以前から興味があった免疫学について、先生方のもとで研究をしています。この研究を通じて、多方面に渡る知識と研究する上での技術を深めていきたいと思っています。また、講義の中には短大時代にはなかったものがあり、とても興味があります。その他の講義についても初心に戻って受講し、知識を深めていきたいと思っています。そうした中で、自分の将来について考えていきたいです。

編入してまだ始まったばかりの学生生活ですがこの2年間は医短の頃と違って自由な時間が多い分、自分自身で作り上げていくもので、それによってはすごく意味のある充実したものになるだろうし、逆に意味のないものになってしまうこともあると思います。せっかく編入したのだから卒業後、臨床検査技師として社会で役立つように勉強することはもちろんですが、学

生でしかできないことも満喫して、充実した学生生活を送っていききたいと思います。

編入学のススメ

検査技術科学専攻3年 塩澤 愛奈

私は今年信州大学の保健学科検査技術科学専攻三年次に編入学しました。といっても、信州大学医療技術短期大学部を今春に卒業して、今の学科に編入学したため、短大の時にお世話になった先生方に引き続きお世話になる形となり、実際には大きな環境の変化はありませんでした。そのため周囲の人からは、何故編入学するのか、わざわざ編入学する必要があるのか、と聞かれる事が多々ありました。しかし、そう聞かれる度にうまく答えられずもどかしい気持ちでいました。そこで、今回はこの場をお借りして私が本校に編入学を決めた理由をお話したいと思います。

私が編入学した理由の一つとして、四年制大学を卒業して学士の称号を得る、という事がありました。しかしこの目的だけでは単純すぎますし、これを達成するだけなら編入学という方法以外にもさまざまな選択肢がありました。では何故わたしが編入学という道を選択したのかというと、編入学後の二年間を通して、これまでに培ってきた自分自身の臨床検査学領域における専門知識をさらに増やし、また、臨床の現場で役立つような考察力を身につけたいという想いがあったからです。さらに、短大時代は時間の余裕が無く、興味を持った分野についてじっくり学ぶことが難しかったため、編入学後の二年間で興味ある分野について学び、新たな分野にも視野を広げ、さまざまな事を吸収して自分自身を成長させたいと思いました。そういう想いに気づかせてくれ、そして編入学するか就職するか迷っていた私の背中を押してくれたのは検査の先生方でした。お忙しい中でも編入学に関してのさまざまな情報を提供してくださり、編入学試験対策にも熱心に協力していただきました。そして、複数の大学に合格し、どの大学に編入学するか迷っていた時も嫌な顔ひとつせず親身になって毎日のように相談にのってくださり本当に嬉しく、心が温まりました。先生方のあの手助けが無ければ、今の私はなかったと思います。

今後、就職して検査の道に進んでいくわけですが、編入生としての二年間は長いようで短く、生かし方一つで無駄な時間にも、有意義な時間にもなります。編入学するまでには、多くの人の力を借り、またたくさん悩んだり苦しんだりしました。それを無駄にしないためにも、そして自分自身のためにも常に探究心をもち、物事にとりくんでいきたいと考えています。

編入学にあたって

看護学専攻3年 原山 由佳

私は、横浜の看護専門学校を卒業して、看護師として1年勤めてから、この信州大学に編入しました。専門学校は3年間なので、授業も実習もびっしり詰まっています。とても忙しかったのですが、今思えば、その分学ぶこともたくさんありました。特に、3年生の時の実習は、毎日緊張の連続で、一番大変だったような気がします。しかし、色々な病棟を回り、様々な疾患の患者様の看護を展開していく中で、看護技術はもちろん、コミュニケーション技術も身につけることができました。これは、看護師として仕事をする時の大切な基礎になりました。看護師になると、1つの病棟に勤めることになるので、学生の時に色々な病棟を回れたことは、とても貴重な経験になりました。実習の忙しさと辛さに耐えられたからこそ、人間としてずいぶん成長できたと思います。

去年1年間は、看護師として外科病棟に勤めました。産科を希望していたのですが希望が通らず、最初がっかりしましたが、学生の時とは違い、患者様の入院から退院までを通して関わることができ、本当にたくさんの経験をすることができました。手術前後の看護、ターミナル期の看護、化学療法、急変時の看護など、1つの病棟でも数え切れない程の経験をしました。外科病棟で働けたことは、今思えばよかったと思います。

高校生の時から助産師になりたいと思ってたので、今、この大学で助産を専攻できて、本当にうれしく思っています。今年は、実習はなく授業だけですが、演習などでしっかり技術を身につけ、来年の保健福祉センターと、助産の実習に繋がっていききたいと思います。

私と編入学

看護学専攻3年 蜜澤 寿恵

私が編入学を本格的に考え始めたのは、1年生の終わりでした。通っていた看護短大は、一般教養も比較的多いということもあり、内容も充実していたのですが、2年生からの授業では専門科目ばかりになり、そして3年生になれば実習中心という、充実しているといえそうですが、看護師へのわき目も振らない生活というものに何か物足りなさを感じました。しかし、私自身も「この看護短大を卒業して、看護師の免許は取得できるのに、大学に編入して、それ以上に何をやりたいのか」ということは、はっきりとは見えていなかったもので、編入学への考えは揺れたままでした。3年生になり、実習が始まり、忙しい日々が始まりました。成人、老年、地域・・・と実習を重ねていきましたが、私の編入学の動機付けになるような体験はできませんでした。そのような中、母性看護学の臨地実習で、出産に立会い、分娩台で苦しそうに呼吸をする母親の手を握ったり、腰をさすったりする中で、「無事に子供を出産してほしい。」という気持ちが、とても大きくなっていくのを感じました。そして児が生まれたときは、今までに味わったことのないような暖かい気持ちになりました。その後、母親と、児の抱き方や、授乳を練習していく中で、「こんなことを仕事にできたらいいな。」と思うようになりました。加えて、将来は母親・父親になるであろう10代の性の問題にかかわっていくことが、自分にとって目指すものではないかと考えるようになり、それが最終的な編入学の動機となりました。信州大学に入学し、数ヶ月がたちます。自分が求めていたはずのものなのに、莫大な時間をうまく使えないでいるということも事実です。せっかく自分の力で手に入れた2年間です、考えることにすべて挑戦するくらいの気持ちを忘れず、有効に使っていきたいと思います。

新人理学療法士の新たな可能性

理学療法専攻3年 宮坂 昭彦

はじめまして、今年度信州大学医学部保健学科に編入学致しました宮坂昭彦と申します。

わたしが編入学した学年は、信州大学医療技術短期大学が信州大学医学部保健学科になり、その一期生ということなので、わたしは編入生の第一号ということになります。

わたしは昨年度まで、新潟県長岡市にある、理学療法士養成校で40と数名の仲間とともに理学療法を学んでいました。

そして今年の3月に行われた第40回理学療法士国家試験を受験し、4月から晴れて理学療法士になることができました。

しかし、わたしは専門学校の仲間が進んだ臨床現場への道とは、少し異なる大学への編入学という道を選択致しました。

有資格者であるわたしが今年、この大学への編入学を選択したのは大きく2つの目的があったためです。

一つは、専門学校の頃から運動学、解剖学、生理学など理学療法を行なううえで不可欠な基礎的な勉強がとても好きでした。

しかし、机上での勉強であったためイメージがわかず、なかなか吸収出来ていない部分も多くありました。

そして現在、理学療法士の免許をもち、臨床での経験、また専門学校時代の臨床実習での経験を得て、またこれらの基礎的な学問を勉強することで、同じ運動解剖生理学も専門学校時代とはまた違った捉え方ができるのではないかと考えたためです。そして、わたしが関わることの出来る患者さんやこれから理学療法士になろうとしている学生にとって有益になると思ったためです。

もう一つは臨床実習を通じ、何に基づいて、何を治療の根拠にして患者様に理学療法を提供していけば良いかということでした。

このような疑問については多くのPTSが、またRPTが感じたことがあることだと思います。

そこで私は、その根拠を作りたい、まとめていきたい、と考えるようになりました。

そうすることで自分の関わることができない患者さんに対しても、なんらかの役に立つことができるのではないかと思いました。

これらの考えが叶うと思い、信州大学への編入学することに致しました。

わたしは昨年の臨床実習中、新潟中越大震災の被災

者となり避難所から実習地に通うという貴重な経験をしました。

最近、日本各地においても地震が多く発生していません。

この大きな地殻変動を日本の地だけでなく、理学療法の世界にも起こし、更に効果が上がる理学療法を患者さん提供することができるよう日々勉強していきたいと思います。

総会記録

平成 17 年度信州大学医学部保健学科同窓会総会記録

日 時 平成17年6月29日(水) 15時30分～16時30分

場 所 旭会館3階大会議室

出席者 川上由行同窓会長、市川元基同窓会名誉会長、山崎一・奥村伸生・山崎章恵・柳澤節子・小林利江・三好圭・浅井美登理・高橋亮・中村真裕子・中瀬裕絵・松本あつ子・三井貞代・伊藤喜世子・上條陽子・石毛崇之・小穴こず枝・寺沢文子・日高宏哉・相良淳二・大平雅美・大村貞治・千島亮・富岡詔子・本郷実・森田孝子・横田素美・柳澤里子・宮坂敏夫・望月一郎・成沢和子・村山忠勇・阿部雅仁・石垣宏尚・稲村慶太・大石早知絵・小越ますみ・葛本佳以・小屋松純司・曾根奈央実・徳岡美保・西川菜緒子・畑田靖世・原田智帆・半田憲誉・三上隆英・三沢健・渡邊正博・後藤孝文・山下美佳

1. 保健学科同窓会長挨拶

2. 保健学科同窓会名誉会長(学科長)挨拶

3. 議長選出

理学療法学 百瀬公人教授を選出した。

4. 平成 16 年度事業及び決算報告について

資料1-1により山崎章恵幹事から事業報告があり、続いて資料1-2により柳澤節子幹事から決算報告があり承認された。

5. 平成 16 年度決算監査報告

小林利江監事から平成17年6月6日(月)に山本良彦監事と通帳・帳簿・証拠書類を確認したところ適正に処理されていた旨報告があった。

6. 平成 17 年度事業計画及び予算(案)について

資料3-1により山崎章恵幹事から事業計画の説明があり、続いて資料3-2により柳澤節子幹事から予算(案)の説明された後、寺沢文子理事から環境整備の具体的内容について質問があり会長から北側校舎よりの通路を整備(年次計画)したい旨説明し承認された。

7. 信州大学同窓会連合会について

資料4-1・4-2により奥村伸生幹事から寄附支出の説明があり承認された。

8. 財団法人信州医学振興会について

資料5-1・5-2により会長から寄附支出の説明があり承認された。

9. 役員改選について

資料6により山崎章恵幹事から説明があり承認された。

10. その他

なし。

決算書・予算書報告

平成 16 年度医学部保健学科同窓会決算書

平成 17 年 4 月 30 日現在

収 入			支 出		
事 項	金 額	備 考	事 項	金 額	備 考
1.前年度繰越	2,218,783		1.在校生の教育支援及び保健学科の運営費補助 図書購入費	500,000	看護学専攻 200,000 検査技術科学専攻 100,000 理学療法学専攻 100,000 作業療法学専攻 100,000 カーティン工科大学(オーストラリア)への短期留学
2.平成15年度入学者	270,000	平成16年4月1日～6月30日迄納入 看護学専攻 3名* @ 60,000 = 180,000 理学療法学専攻 1名 @ 60,000・分割1名 @ 30,000	学術国際交流推進経費 卒業・修了祝賀会経費 入試広報活動経費 キャンパス見学会経費 特別講演会経費 学生課外活動費	700,000 300,000 346,154 66,000 500,000 85,206	保健学科案内パンフレット3,000部等 新入生歓迎フェスティバル・銀嶺祭・松本ぼんぼん等への参加 各教室の扇風機購入39台
3.保健学科入学生会費	7,440,000	平成16年6月30日迄納入 看護学専攻 (77名中65名、84.4%) @ 60,000 * 65名 = 3,900,000 検査技術科学専攻(40名中31名、77.5%) @ 60,000 * 31名 = 1,860,000 理学療法学専攻 (20名中13名、65.0%) @ 60,000 * 13名 = 780,000 作業療法学専攻 (19名中15名、78.9%) @ 60,000 * 15名 = 900,000	環境整備 大学院立上げ活動経費 記念事業等特別積立金 小 計	1,200,000 300,000 800,000 4,797,360	
4.専攻科入学生会費	143,000	平成16年6月30日迄納入 本学卒業生 (3名中3名、100%) @ 5,000 * 3名 = 15,000 他学卒業生 (17名中16名、94.1%) @ 8,000 * 16名 = 128,000	2.保健学科同窓会分科会 (各専攻単位)運営費補助 看護学関係同窓会 検査技術科学関係同窓会 理学療法学関係同窓会 作業療法学関係同窓会 上記振込み手数料 小 計	1,380,000 680,000 300,000 300,000 1,260 2,661,260	@ 20,000 * 69名(65名+4名) @ 20,000 * 34名(31名+3名) @ 20,000 * 15名(13名+2名) @ 20,000 * 15名
5.利息	89	平成16年8月 65円 平成17年2月 24円	3.保健学科同窓会運営費 同窓会だより 同窓会総会等経費 事務処理等件費 通信費 消耗品 電気・電話使用料 予備費 小 計	299,250 322,250 560,000 9,280 403,759 68,756 79,045 1,742,340	6,000部 総会・理事会・幹事会等 70日* @ 8,000(1日8時間勤務) 会員への案内及び未納者への通知 事務用パソコン等 建物使用料は免除 保健学科公開シンポジウム補助
			4.翌年度繰越 小 計	870,912 870,912	
合 計	10,071,872		合 計	10,071,872	

平成 17 年度医学部保健学科同窓会予算書

平成 17 年 5 月 31 日現在

収 入			支 出		
事 項	金 額	備 考	事 項	金 額	備 考
1.前年度繰越	870,912		1.在校生の教育支援及び保健学科の運営費補助 図書購入費	500,000	看護学専攻 200,000 検査技術科学専攻 100,000 理学療法学専攻 100,000 作業療法学専攻 100,000
2.平成15年度入学者	60,000	平成17年5月31日迄納入 看護学専攻 1名* @ 60,000 = 60,000	実習指導者連絡協議会経費 学術国際交流推進経費 卒業・修了祝賀会経費 入試広報活動経費 キャンパス見学会経費 特別講演会経費 学生課外活動費	300,000 300,000 100,000 100,000 60,000 500,000 200,000	カーティン工科大学(オーストラリア)への短期留学
3.平成16年度入学者	60,000	平成17年5月31日迄納入 検査技術科学専攻 1名* @ 60,000 = 60,000	環境整備 大学院立上げ活動経費 記念事業等特別積立金 小 計	1,500,000 300,000 800,000 4,660,000	新入生歓迎フェスティバル・銀嶺祭・松本ぼんぼん等への参加
4.保健学科入学生会費	8,030,000	平成17年5月31日迄納入 看護学専攻 (71名中63名、88.73%) @ 60,000 * 63名 = 3,780,000 看護学専攻 (分割2名) 40,000 @ 30,000 * 1名 @ 10,000 * 1名 検査技術科学専攻(37名中34名、91.89%) @ 60,000 * 34名 = 2,040,000 検査技術科学専攻(分割1名) 10,000 @ 10,000 * 1名 理学療法学専攻 (19名中19名、100%) @ 60,000 * 19名 = 1,140,000 作業療法学専攻 (19名中17名、89.47%) @ 60,000 * 17名 = 1,020,000	2.保健学科同窓会分科会 (各専攻単位)運営費補助 看護学関係同窓会 検査技術科学関係同窓会 理学療法学関係同窓会 作業療法学関係同窓会 上記振込み手数料 小 計	1,340,000 760,000 400,000 340,000 1,260 2,841,260	@ 20,000 * 67名(63名+4名)分割2名除く @ 20,000 * 38名(34名+4名)分割1名除く @ 20,000 * 20名(19名+1名) @ 20,000 * 17名
5.3年次編入学生会費	280,000	平成17年5月31日迄納入 看護学専攻 (6名中3名、50.00%) @ 40,000 * 3名 = 120,000 検査技術科学専攻(5名中3名、60.00%) @ 40,000 * 3名 = 120,000 理学療法学専攻(1名中1名、100%) @ 40,000 * 1名 = 40,000	3.保健学科同窓会運営費 同窓会ホームページ及び同窓会編集会議等 同窓会だより 同窓会総会等経費 事務処理等件費 通信費 消耗品 電気・電話使用料 信州大学同窓会連合会 信州医学振興会 小 計	200,000 400,000 400,000 560,000 10,000 35,000 33,000 70,000 50,000 1,758,000	6,000部 総会・理事会・役員会・幹事会等 70日* @ 8,000(1日8時間勤務)
6.専攻科入学生会費	151,000	平成17年5月31日迄納入 本学卒業生 (3名中3名、100%) @ 5,000 * 3名 = 15,000 他学卒業生 (17名中17名、100%) @ 8,000 * 17名 = 136,000	4.予備費	192,652	建物使用料は免除
合 計	9,451,912		合 計	9,451,912	

同窓会役員

会 長: 川上由行(医学部保健学科)	上條陽子(医学部保健学科)	作業療法学専攻2名
副会長: 山崎一(南箕輪村役場)	検査技術科学専攻4名	山鹿隆義(作業療法学専攻学生)
理 事: 看護学専攻8名	石毛崇之(検査技術学専攻学生)	青木朗(医学部保健学科)
浅井美登理(看護学専攻学生)	石田章子(波田総合病院)	幹 事: 奥村伸生(医学部保健学科)
中瀬裕絵(看護学専攻学生)	亀谷清和(信州大学総研)	山崎章恵(医学部保健学科)
松本あつ子(医学部附属病院)	寺沢文子(医学部保健学科)	柳澤節子(医学部保健学科)
三井貞代(医学部附属病院)	理学療法学専攻2名	三好圭(医学部保健学科)
伊藤喜世子(医学部附属病院)	齋藤幹剛(理学療法学専攻学生)	監 事: 山本良彦(長野医療専門学校)
細田かず子(医学部附属病院)	森本正道(竹重病院)	小林利江(医学部附属病院)
丸山順子(松本短期大学)		

信州大学医学部保健学科同窓会会則

信州大学医学部保健学科同窓会会則

第1章 総 則

- 第1条 本会は、信州大学医学部保健学科同窓会(以下「本会」という。)と称する。
- 第2条 本会は、事務局を松本市旭3丁目1番1号 信州大学医学部保健学科内に置く。
- 第3条 本会は、会員相互の親睦を図るとともに、母校との連携を保ち、その発展に寄与することを目的とする。
- 第4条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行なう。
- 一 会員の親睦及び研修に必要な事項
 - 二 母校の発展に関する事項
 - 三 その他必要と認められる事項
- 第5条 本会は、必要に応じて各専攻等を単位とする分科会を置くことができる。
- 2 分科会の設置及び運営に関する事項は、理事会の承認を経て各分科会が定める。

第2章 会 員

- 第6条 本会の会員は次のとおりとする。
- 一 正会員
 - イ 信州大学医学部附属看護学校、信州大学医学部附属助産婦学校、信州大学医学部附属衛生検査技師学校、信州大学医学部附属臨床検査技師学校の卒業生
 - ロ 信州大学医療技術短期大学部の在学生及び卒業生
 - ハ 信州大学医学部保健学科(以下「本学科」という。)の在学生及び卒業生
 - 二 特別会員
 - イ 本学科教員
 - ロ 本学科元教員
 - ハ 前項以外の者で理事会の承認を得た者
- 第7条 会員が死亡または会員たる資格を喪失したときは、退会したものとみなす。

- 第8条 会員が、本会の名誉を傷つけ、または本会の趣旨に反する行為をしたときは、総会において出席会員の4分の3以上の議決により、これを除名することができる。
- 第9条 正会員は、会費として6万円を本学科入学時に納入するものとする。ただし、退会または除名された会員が既に納入した会費その他の拠出金は返還しないものとする。

第3章 役員等

- 第10条 本会に次の役員を置く。
- 一 会 長 1名
 - 二 副会長 1名
 - 三 理 事 16名(看護8名;検査4名;理学2名;作業2名)
 - 四 幹 事 若干名
 - 五 監 事 2名
- 第11条 役員は、次の職務を行なう。
- 一 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
 - 二 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。
 - 三 理事は、会員の代表として本会の運営に当たる。
 - 四 幹事は、本会の実務に当たる。
 - 五 監事は、本会の会計を監査し、総会に報告する。
- 第12条 役員は、次により選出又は委嘱する。
- 一 会長は、総会において正会員の中から選出する。
 - 二 副会長は、会長が正会員の中から推薦し委嘱する。
 - 三 理事は、正会員の中から各専攻毎に選出し委嘱する。
 - 四 幹事は、会長が委嘱する。
 - 五 監事は、総会において正会員の中から選出する。
- 第13条 役員は、任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 2 補欠による役員は、前任者の残任期間とする。
 - 3 役員は、任期が満了しても後任者が就任するまではその職務を行なうものとする。

第4章 名誉会長及び顧問

- 第14条 本会に名誉会長を置き、本学科の学科長を推戴する。
第15条 本会に顧問を置くことができる。顧問は、総会の議を経て会長が委嘱する。
2 顧問は、重要事項について会長の相談に応ずる。

第5章 会議

- 第16条 総会は、原則として毎年1回開催し、次の事項を審議決定する。
一 事業及び決算報告
二 事業計画及び予算
三 会則の制定及び改廃
四 役員を選出
五 顧問の推挙
六 その他の必要事項
2 会長は、総会を召集し、理事会の議を経て前項に定める事項を提案する。
第17条 会長は必要と認めるとき、臨時総会を開催することができる。
第18条 総会の議長は、出席会員の中から選出する。
第19条 総会は、日時、場所、付議すべき事項等を示して召集する。

- 第20条 総会に出席できない会員は、あらかじめ文書をもって意見を表示することができる。
第21条 総会の議事は出席会員の過半数で決し、可否同数のときは議長がこれを決する。
第22条 総会は、議事録を作成し、これを保存する。
第23条 理事会は、会長、副会長、理事及び幹事によって組織する。
第24条 理事会は、会長が必要と認めるとき、又は理事の5分の2以上の要求があったときに開催する。
第25条 理事会は、会長が召集し、議長となる。
第26条 理事会の議事は、出席者の過半数で決する。
第27条 理事会は必要に応じて委員会を置くことができる。

第6章 会計

- 第28条 本会の経理は、会費及び寄付金その他の収入をもって充てる。
第29条 本会の会計年度は、毎年4月1日から始まり翌年3月31日に終わる。

附則

- この会則は、平成15年4月1日から施行する。
この会則は、平成16年4月1日から施行する。

信州大学医学部保健学科同窓会会計細則

- 同窓会費は6万円とし、本学本学科入学時に一括納入することを原則とする。また、3年次編入生については、編入時に4万円を納入するものとする。ただし、本人からの申し出があった場合は、同窓会理事会が分割払いを認めることができる。
- 本学科同窓会費6万円の使用内訳は、次のとおりとする。ただし、この枠を越えて使用する必要が生じたときは、同窓会理事会の承認を必要とする。
 - 在校生の教育支援及び医学部保健学科の運営に関すること。 3万円
 - 保健学科同窓会分科会(各専攻単位)の運営に関すること。 2万円
 - 医学部保健学科同窓会としての運営に関すること。 1万円また、3年次編入生の同窓会費4万円の使用内訳は、次のとおりとする。
ただし、この枠を越えて使用する必要が生じたときは、同窓会理事会の承認を必要とする。
- 在校生の教育支援及び医学部保健学科の運営に関すること。 1万5千円
- 保健学科同窓会分科会(各専攻単位)の運営に関すること。 2万円
- 医学部保健学科同窓会としての運営に関すること。 5千円
- 金融機関への振込手数料は、会員の負担とする。
- 幹事代表者名で金融機関に同窓会の口座を設け、会計担当幹事が通帳・印鑑を管理する。
- 同窓会費の徴収は、入学時に行ない、徴収後は速やかに同窓会費支払者リストを作成する。
- 会計担当幹事は、会計年度終了後に速やかに決算報告書を作成し、監査を受ける。
- 本細則の改正は、同窓会総会で行なう。

附則

- この細則は、平成15年4月1日から施行する。
この細則は、平成16年4月1日から施行する。

編集後記

今回初めて「同窓会だより」の編集作業を担当しました。会誌の編集作業は初めてだったため、準備期間が十分あったにも関わらず、原稿依頼を始めようとすると、テーマ、文字数など決めなければならないことが多くあり、バタバタと作業をしていたように思います。そのため、原稿をお願いした先生方、学生さん、さらには成進社印刷の方には色々ご迷惑をおかけいたしました。

今後、同窓会だよりは毎年10月に発行予定です。掲載内容などについてご意見、ご要望などがありましたら同窓会役員までお知らせください。できる限り反映させて、皆様に「読んでみようかな…」と思われるような会誌を作っていきたいと思っています。

保健学科理学療法学専攻 三好 圭